ドン・ボスコの風

Joyful Communication !

SALESIAN BULLETIN JAPAN
July 2015
No. 15

ドン・ボスコ生誕200周年 BICENTENARY OF BIRTH 2015-2016

"自分は愛されている"と
実感できるなら

彼らは人を信じ
人の幸せのために生きることが
できるようになる

彼らには
信じてくれる大人がいることを
わかってもらいたいのです

DB200 特集

なぜ、今ドン・ボスコなのか？

漫画『コラッジョ!!』に見る
ドン・ボスコが私たちに
伝えたかったこと

漫画『コラッジョ!!』出版記念座談会
漫画『コラッジョ!!』誕生秘話

インタビュー
ドン・ボスコの教え子たち
長岡洋一さん

Message

サレジオ家族の皆様へ

「新しい出発の呼びかけ」

～神のみ国の到来とサレジオ運動～

サレジオ会日本管区 管区長
マリオ 山野内 倫昭神父

2015年5月24日、カトリック浜松教会の聖母行列にて。左は弟の山野内公司神父

ドン・ボスコ生誕200周年は、私たち日本のサレジオ家族にとって、とくに「交わり」と「一致運動」の再出発の時となっています。サレジオ家族の各グループから派遣されたメンバーからなるドン・ボスコ生誕200周年実行委員会は、豊かな企画を立て、家族の絆を広げ、深めてきました。「ドン・ボスコ生誕200周年ニュース」や「ドン・ボスコの風」（Facebook版・雑誌版）などを通して互いの情報が伝えられ、きっと皆さんも「何か新しい風が吹いている」と感じておられることでしょう。

その大きな実りの一つとして、この記念すべき年にサレジオ同窓会日本連合が設立され、熱意あふれる同窓生の皆さんと出会いました。また、これまでドン・ボスコのことを知らなかったけれども、社会の中で助けを最も必要とする青少年のためにドン・ボスコのように時間と生活費を惜しまず奉仕している方々との出会いもありました。

私は大きな気づきと励ましをいただきました。こうして出会う方々との絆をいつも意識し、共に協力し合うことによって、サレジオ運動はさらに力強く実現されるのだと確信します。貧しい青少年が「かわいそう」だから助けるのではなく、出会った皆さんの姿をとおして、神が共に彼らのために働くよう呼びかけておられることを悟ったのです。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」（マタイによる福音書25章40節）というイエス・キリストの言葉が、新しい使命の夢を与えてくださいます。

私たちも、ドン・ボスコが9歳の時に神からいただいた「夢」を共有しています。「小さい者と貧しい者に優先的な愛、いやし、救おうとする緊迫感」（サレジオ会会憲11条）を実現するようにと、聖母マリアはドン・ボスコに諭（さと）されました。この夢をドン・ボスコ生誕200周年からの新しい出発のビジョンとしましょう。そして、教皇フランシスコの「すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いて行きましょう」（『福音の喜び』49）という呼びかけに応えましょう。神の国の到来を実現するサレジオ運動を心を一つにして発展させることができますように、皆様のご協力をお願い致します。

2015年6月12日　イエスのみ心の祭日に

マリオ 山野内 倫昭　やまのうち・みちあき

1955年大分県佐伯市生まれ、59歳。8歳の時、家族とアルゼンチンへ移住。29歳で司祭叙階。アルゼンチンの哲学院で哲学、社会学などを教え、司牧担当・院長・アルゼンチンとパラグアイ6管区の修練長を経て、1997年（41歳）帰国、日本のサレジオ会員として働く決意をする。育英高専・杉並支部院長、調布サレジオ神学院院長、副管区長・サレジオ家族担当・養成担当を務め、2014年12月4日より日本管区長。趣味はギター演奏。

Contents もくじ

3　Message ● 「新しい出発の呼びかけ」～神のみ国の到来とサレジオ運動～

4　DB200特集 ● なぜ、今ドン・ボスコなのか？
～漫画『コラッジョ!!』に見るドン・ボスコが私たちに伝えたかったこと～

6　本のひととき特別企画 ● 漫画『コラッジョ!!』出版記念座談会
漫画『コラッジョ!!』誕生秘話
鈴木ぐりさん 漫画家 × 浦田雅子さん ビジネスプロデューサー × 浦田慎二郎さん サレジオ会司祭

14　ドン・ボスコゆかりの地を巡る ● トリノ　ヴァルサリチェ

16　世界のサレジオ家族ニュース

18　ドン・ボスコ生誕200周年ニュース ダイジェスト版
全国の200周年関連イベント報告

21　DB200周年特別企画巡礼レポート ●
Salesian Youth Day 青年ナイト・ウォーキング巡礼に参加しました！

22　ドン・ボスコ生誕200周年記念コンテスト ● 受賞者の声

24　インタビュー ● ドン・ボスコの教え子たち
長岡洋一さん from サレジオ学院中学校・高等学校

26　Essay ● 「“サレジオ”の精神とは？」

28　サレジアンが心を込めて贈るあなたへ応援メッセージ ● もっとキミに伝え隊（タイ）!!

29　サレジアン小伝 ● ありがとう！ 木村重雄さん
社会のために捧げた第二の人生

30　Info ● お知らせ

31　読者プレゼント

「ドン・ボスコの風」について ―― 「ドン・ボスコの風」は、喜びを共にし、サレジオ家族の原点を見つめ、絆を深め、社会・世界に羽ばたいて、その実りを分かち合うためのコミュニケーション誌を目指しています。ドン・ボスコの精神を多くの方々と共有し、新しいつながりに広げていくきっかけとしてご活用いただければ幸いです。皆様からの情報提供とご支援をよろしくお願いいたします。

Joyful Communication !
ドン・ボスコの風
SALESIAN BULLETIN JAPAN
No. 15
July 2015

表紙イラスト
漫画『コラッジョ!!』p175、8章「守りぬく」より。このセリフの中にドン・ボスコの生き様が表されている。

絵：© 鈴木ぐり　2015

ドン・ボスコとは？
「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯を献げた神父。1815年イタリア生まれ、名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味）。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。

サレジオ家族とは？
ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、30団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人びとのために奉仕している。サレジアンファミリーとも呼ばれる。

なぜ、今ドン・ボスコなのか？

DB200 特集

漫画『コラッジョ!!』に見る
ドン・ボスコが私たちに伝えたかったこと

2015年、世界各地で、また日本でも「ドン・ボスコ生誕200周年」を祝うイベントが続いている。なぜ今、ドン・ボスコを記念するのか？先日出版されたばかりの漫画『コラッジョ!!』の中に、魅力的に描かれた一人の神父の人物像や生き方に表れるメッセージを探ってみた。

取材・文・写真●編集部

『コラッジョ!!』で描かれるドン・ボスコは人を信じ、人を大切にする。それは言葉にも表れている。その原点は、神への信頼だ。

P.04-13　絵／©鈴木ぐり　2015

静岡サレジオで2015年1月31日、ドン・ボスコの記念日に開催された「ドン・ボスコ フェスティバル」の一幕

どんなメッセージなのだろう？

なぜドン・ボスコ生誕200周年を祝うのか？

今、世界中でドン・ボスコが話題だ。それは今年が生誕200周年だから。この日本でも、全国のサレジオ家族では様々なイベントが組まれ、グッズや本も続々と誕生している。そこに関わる大人、若者、子どもたちはとても笑顔や元気にあふれている。その笑顔の理由はなんだろう？　この日本で、イタリアで生まれた一人の神父の誕生を祝う意味はどこにあるのだろうか？　日本発信の漫画『コラッジョ!!』の中に描かれるドン・ボスコの姿から、メッセージを読み解いてみたい。

『コラッジョ!!』のあらすじ

時は現代の日本、ありふれた高校生のリクとマナ。何に対しても冷めた態度をとる男の子リクと、SNSを通じての友達づき合いにすら不安を抱く女の子マナが、帰り道に出会った灰色の子犬に導かれて教会へ。そして教会を出てみると……、そこは19世紀のイタリア・トリノだった。突然トラブルに巻き込まれた二人を助けたのは一人の神父、ドン・ボスコ。二人はドン・ボスコに誘われ、彼が開いた若者たちのための居場所、オラトリオへ。オラトリオで出会う人々やドン・ボスコと共に、様々な困難を乗り越えていくうち、二人は人を信じ、祈る心を育んでいく。しかし、さらなる困難がオラトリオの人々を待ち受けていた……

本のひととき　特別企画

漫画『コラッジョ!!』出版記念座談会

漫画『コラッジョ!!』誕生秘話

聞き手・写真●編集部

2015年5月、世界から待望されていたドン・ボスコを題材とした漫画『コラッジョ!!』が出版された。日本独自の表現文化として世界に受け入れられている「漫画」で描いたドン・ボスコは人間味にあふれ、オラトリオの子どもたちも魅力満載、そしてストーリー設定も斬新だ。そんな新しい試みに挑戦した3名に制作の裏話を伺った。

―― 仕事のオファーが来た時に思ったことは?

浦田(雅) 実はドン・ボスコのことはサレジオ関係の学校の創始者ということとか、一般的な情報として何となく知っていましたので、すぐに興味を持ちました。

浦田(慎) へえ。

浦田(雅) もともと偉人漫画を作りたかったんです。小学生の子どもが偉人漫画大好きなので。偉人漫画、しかも知っているドン・ボスコということで、「きた!うれしい!」っていう思いでしたね。

鈴木 ぼくは(ドン・ボスコのことを)初めて知ったので、「ドン」っていう言葉が全然わからなくて、ボスみたいな。(笑)

浦田(慎) マフィアみたいな。

鈴木 キリスト教のお話っていうのは聞いていたので、もちろんそんなわけはないとは思いましたけど、名前のイメージでは「いかつい大きなボス」って感じ。

―― キリスト教に対して持っていたイメージは?

鈴木 ぼくは幼稚園がカトリックだったので、ほんとに一番小さいときに刷り込まれた感じですね。キリスト教の世界観は、子どもの頃すごく好きでしたね。

浦田(雅) 私もキリスト教に対するアレルギーとかは全くなかったですね。キリスト教を背景とする漫画はたくさんあって、読んでいましたから。

―― ドン・ボスコの資料を見た時の印象は?

鈴木 ぼくは最初DVD『ドン・ボスコ』を見たんですが、「人間味豊かなドン・ボスコ像」っていう印象が強かったですね。神父らしくないというか。学園ドラマにでてくるような学校の先生のようなイメージでしたね。

浦田(雅) 熱血教師みたいな。

鈴木 聖人というと、仙人みたいな、人間味がないようなイメージがあるんですけど、ドン・ボスコは生活での人となりっていうのも事細かに出ていて、人間味にあふれているなって思いますね。

―― はじめてカトリックの神父に会った時の印象は?

浦田(雅) 神父さんって、今まで会ったことなかったんです。ものすごく真面目で、常に物静かで、ジョークも言わない人たち…かな?と思っていたのですが、大きく覆(くつがえ)されましたね。(笑)

鈴木 (笑)

浦田(雅) ほんとに明るいですし、皆さん「ドン・ボスコ大好き!」っていうのが伝わってきました。制作中こちらの心が元気じゃない時に、神父さんたちの何気ない言葉で救われたこともありました。

―― 二人の高校生リクとマナがドン・ボスコのいる2世紀前のイタリアにタイムスリップするという斬新な設定にしましたが、そのねらいは?

浦田(慎) 現代の中高生が読んだときに、ただ「すごい人」っていうんじゃなくて、自分に関係することとして感情移入できるようにねらいましたね。そのためにはステレオタイプ(画一的)な人間ではなく、複雑な内面を抱えたリアリティ(現実味)ある登場人物じゃないといけないので、非常に難しい作業だったんですけど…。

―― 漫画化にあたって、どんなドン・ボスコの姿を伝えたいと考えましたか?

浦田(慎) 映画では出せなかったような、漫画ならではのおどけた表現ってあるじゃないですか。ボールをぶつけられて顔が真っ赤になっていたりとか、ちょっとびくっとしてみたりとか。聖人として生きているんだけれども、悩むし、苦しむし、辛い思いもするし、落ち込むし、わたしたちと同じように葛藤するリアルな人間としての姿を伝えたいというのがありました。

浦田(雅) ドン・ボスコはサレジオ会を創立した人物なので、変な言い方ですけど、「上に奉(たてまつ)る」というイメージがありました。そのような方に向かってボールをぶつけてしまうと「あとでクレームが来るのでは?」って心配しました。

浦田(慎) 今でも小学生と遊んでいるんですけど、よくそういう風になるんですよ。やっぱり子どもは大人と絡むのが好きなので、「この人だったら遊べるな」と感じたら、結構めちゃくちゃなことしてくるんですね。きっとドン・ボスコもそういう風に…。(笑)

浦田(雅) そういうことだったんですね。(笑) ご自分の体験からのエピソードだったのですね。

浦田(慎) 子どもは大人のことを好きでやっているんだと思うんですけども、こちらの想像を超えてくるときがあるので、正直凹(へこ)むときもある。ですけど、ドン・ボスコもやっぱり子どもに、敷居を作らずに近づいていたに違いないと思ったときに、「まあいいじゃないか」と。とにかく、この場面を見て慰められる。

一同 (笑)

鈴木 ぼくも「キリスト教の方々からクレームが入るんじゃないか」と思って抑え目にいった方がいいのかなと最初の段階では思っていたんですけども、「ボールぶつけたりしちゃってもいい」と皆さんから伺って、とても安心して描けました。ぼくはそういう崩した感じでやりたかったので。

なぜ、今ドン・ボスコなのか?

Shinjiro Urata

浦田慎二郎さん

PROFILE サレジオ会司祭、神学博士。専門はドン・ボスコ研究。杉並サイテック館長。

Guri Suzuki

鈴木ぐりさん

PROFILE 漫画家。主にビジネス書籍や雑誌、広告などで活躍中。

Masako Urata

浦田雅子さん

PROFILE スタイル(株)ビジネスプロデューサー/編集者。出版社や広告制作会社の編集を経て、2014年より現職。

ドン・ボスコ

PROFILE 1815年北イタリア生まれ、30代の神父。名前はジョヴァンニ・ボスコ。貧困のために見捨てられている青少年たちを救おうと日々奮闘している。

浦田(雅) それをいうなら、ドン・ボスコが泣いてしまうシーン。あそこも議論になりましたよね。「(ドン・ボスコを)泣かせていいんですか?」と。人間臭さを出すんだったら喜怒哀楽を出すのは当たり前ですけど、聖人とも言われる人が、泣いてしまっていいんですか?って。そしたら「やるせなくて泣いてしまっていいんです」って浦田神父さんが話してくださいましたよね。

浦田(慎) 人間らしくても、常にかっこよかったりする人っているじゃないですか。でも今回は時々ドン・ボスコもカッコ悪かったっていう感じがやっぱり、欲しかったですね。

―― タイトル『コラッジョ!!』に込めた思いは?

浦田(慎) とりあえずこの会議室でタイトルを思いつくままに何でもかんでも皆で出してましたね。

浦田(雅) 浦田神父さんはウロウロ歩きながらアイデアを探していました。(笑)

浦田(慎) 「イタリア語、どうかな?」みたいな流れになってイタリア語の表現を考えていた時に、出てきたのが「コラッジョ」(勇気)でしたね。皆さんがこれを聞いたときに「その響きいいね!」っていうことで、受け入れてもらいました。「Forza Coraggio Avanti」、イタリア語で人を励ます表現なので、前向きに人を励ますドン・ボスコの精神がよく出ている言葉かなって思います。

浦田(雅) いい響きですよね。

浦田(慎) 私自身、イタリア留学中に落ち込んでいるとき、あちらのシスターにこの言葉を言われて、すごく励まされた体験があるんですよ。とても優しい言い方でした。今でもその響きを思い出します。

―― 鈴木ぐりさんと浦田神父さんは、サレジオ会の神父・修練者のイタリア巡礼に同行して、漫画の取材をしましたね。

鈴木 イタリアに行ったのは初めてだったので、見るもの、聞くもの、食べるもの、飲むもの、全てが新鮮で、世界を見る目が広がったみたいな感覚がありましたね。ドン・ボスコのことに関して言うと、生誕地のベッキ村に行った時、21世紀の世界なのにすごく素朴だなと。東京とかに住んでいると、「あれもこれもしたい」という誘惑が多いと思うんですけども、ベッキ村って、言ってしまえば何もない。ベッキ村に行って次の日の朝とか、ドメニコの家の方へ真っ暗な中歩いたりとかしていると、ここなら目標に向かって余計な情報が入らずに邁進(まいしん)できるんじゃないかなと感じましたね。ドン・ボスコという信念の強い人が育つ土地なんだなと思いました。

“ぼく自身だったりするんですよ、リクが。”

―― サレジオ会員と過ごして体験したことやカルチャーショックなどは?

ドン・ボスコが育ったベッキ村の家の前で(鈴木ぐりさん)

なぜ、今ドン・ボスコなのか?

グリージョ

PROFILE リク、マナがドン・ボスコに会うきっかけを作る灰色の犬。ドン・ボスコやオラトリオの子どもたちの危険を察知すると現れる不思議な犬。

リク

PROFILE マナと幼なじみの16歳。マナと同じ高校に通っている。パソコンから情報を得るが友達を持たず、人を信用せず、冷めた目で世の中を見ている。

マナ

PROFILE 日本の高校に通う15歳。親しい友達を作れず、スマートフォンのSNSでの友達付き合いに振り回されている。リクとは幼なじみ。

鈴木 漫画の中でリクがオラトリオの子どもの印象を話しているシーンがあるんですよ。

浦田(慎) 彼らが人間関係を築くのに悩んでいるところですよね。

鈴木 そうですね、5章(「勇気」)の前半のシーンですね。ぼくは若い頃、ムスっとしていたり無表情だと言われたりしていたので、ぼく自身だったりするんですよ、リクが。

浦田(慎) うんうん。

鈴木 突っ張っているわけではないんだけれど、ちょっと物事を遠くから、「自分は関係ない」みたいな感じで見ていた頃があったんです。今でも少しそんな空気を出してしまう時があるんですけど、それでも、サレジオの皆さんはすごい気さくに話しかけてくださってたんですよね。サレジオの人たち同士で話している会話もすごいピュアで。冗談でおどけたりイタズラしたりというのはあるんですけども、ネガティブな方向の感情を持っていないなあというのはすごく感じました。ここまで純粋な人たちがいるんだなあ、と。

浦田(慎) (笑)

鈴木 あと、カルチャーショックといえばロザリオですかね。夕方、みんなで思い思いにウロウロしながら同じことをみんなで祈る姿にびっくりしましたね。サレジオ会の方にロザリオを頂いて、「一緒にやりましょう」と誘っていただいたので、やってみました。言葉は分からなかったんですが…。この時初めて、「あっ、宗教なんだな」って思いました。

“わたしたちと同じように葛藤する
リアルな人間としての姿を伝えたい”

―― 制作は長い道のりでした。

浦田(雅) 昨年4月からプロット(物語のあらすじ)をやって、8月にイタリアへ行ったんですよね。

―― プロットを1章ずつ出しては話し合い、年明けまでネーム(コマ割とエンピツ下描き)作成と修正をくり返し。

鈴木 そうですね、ペン入れを年明けから。3カ月ですね。いや、もう…。

浦田(雅) きつかったですね。

鈴木 正直無理だと思って諦めもありましたけどね。きっと締切をのばしてくれるだろうと期待していたんですが。(笑) 最終的にはちょっと伸びましたけど、やっぱりきつかったですねえ。

―― 苦労したシーンは?

鈴木 6章(「献身」)が1回丸々ボツったので…。

浦田(雅) 6章ボツになりましたね。でも、ぐりさん的にも「6章はちょっと自信がない」って。

鈴木 自信がなかったですね。ドメニコの使い方をすごく慎重

にやりましたね。

―― ここはリクとマナが巻き込まれる形で一緒に働く中で、ドメニコやドン・ボスコの姿に触れて心動かされる場面ですね。

鈴木　5章（「勇気」）も含めてすごい転機になってる重要な場面だと思うんですよね。このあとマナがマンマ（マルゲリータ）を励ますシーンになるので、この部分は色々頭を悩ませましたね。

浦田（雅）　あと、とにかくオラトリオの子どもたちをいっぱい描いてくださいとリクエストされたので。それがもう、「どうやって（何百人も）描けばいいんですか！」っていう。（笑）

鈴木　本当に一番苦労したのはそこですねえ。

浦田（雅）　そうですね。とにかく子どもが多い漫画です。（笑）

ドメニコ・サヴィオ

PROFILE　ドン・ボスコを慕い、オラトリオで暮らす少年の一人。体が弱いが無理をしてでも人のため、神さまのために懸命に生きようとするが…。

オラトリオの少年たち

PROFILE　左から力持ちのジュゼッペ・ブゼッティ、やんちゃなジョヴァンニ・カリエロ、聡明なミケーレ・ルア。ドン・ボスコを父親のように慕っている。

マンマ・マルゲリータ

PROFILE　ドン・ボスコの母親。田舎で孫たちと暮らしていたが、ドン・ボスコに頼まれてオラトリオの少年たちの世話をすることになる。

“聖人とも言われる人が、泣いてしまっていいんですか?って”

鈴木　子どもの多さですよねえ。

―― お気に入りの場面は?

鈴木　地味なんですけど、7章（「共にいる」）のマンマとマナが抱き合う1コマです。

浦田（雅）　このコマ最高です。「ぎゅー」ってなっている感じが、特に。

鈴木　このシーンをすごく描きたかったんで、このコマは結構思い入れがあります。

浦田（慎）　この時マンマはどんな顔をしてたんでしょうねえ…。

鈴木　そうなんですよ！　顔は見せないようにしたんですよ！

浦田（雅）　泣いてたかもしれませんね。

鈴木　泣いてたかもしれないですね。

―― ここはドン・ボスコの伝記にもない、オリジナルですよね。

鈴木　そうですね。

浦田（慎）　ぼくは、9章（「祈り」）の一番最後のところ。病気が治って椅子ごと担ぎ上げられるドン・ボスコをマナが見て、ドン・ボスコの9歳の夢の場面だと気づいたシーン。ここはぐりさんのアイデアでした。ぐりさんの理解の深さに感嘆した場面ですし、内容的にもすごい好き。小さい頃からの、ひとつ筋が通ったというか。

鈴木　ぼくもこれに気づいた時は、「行ける！」と。（笑）　いい終わり方ができたなと。

浦田（雅）　私は1章（「出会い」）のドン・ボスコが、リク、マナをオラトリオに連れてきた時、子どもたちが木から「ザッ！」と降りてきて「ドン・ボスコオオオー！」と抱きつくシーン。抱きつくっていう行為に、オラトリオの子どもたちの元気良さとドン・ボスコとの信頼関係がものすごく現れていますね。

浦田（慎）　ドン・ボスコの顔がいいですよね。

浦田（雅）　そうですね！「おお、みんな！」みたいな。

浦田（慎）　これは漫画じゃないとなかなか出せない表情ですよね。

浦田（雅）　この表現は漫画ならではのものです。ぐりさんのオリジナルが全面に出ています。

鈴木　そうですね。まさにその信頼関係というか、「壁がない」っていうのを一番最初に見せたいなと。

浦田（雅）　ここは、絵の構成としても、ゾクっとくる感じがしました。

―― お気に入りの登場人物は?

鈴木　ぼくは、地味なんですけど、カリエロなんですよね。

一同　おおお！（笑）

浦田（雅）　すごい地味なところを。（笑）

鈴木　最初にキャラデザインをした時から一番お気に入りでした。

浦田（慎）　元気のいい少年でね。

鈴木　そうですね。ドジで間抜けで、でも屈託のない笑顔の少年っていう感じでしたね。全然優等生じゃないっていう。

浦田（慎）　私は、憧れという意味でドメニコ。すごい純粋で、嫌味のないっていう、自分には絶対ない何かを持っている。好きですよね、そういう人物が。

浦田（雅）　私は、裏の主人公はグリージョだと思っています。

一同　（笑）

浦田（雅）　グリージョが全て導いたという感じがして。

鈴木　まあそうですよね。

浦田（雅）　確か浦田神父さんから名刺をいただいた時、そこに犬が描かれていて。「不思議な犬グリージョ」というのも『ドン・ボスコ自叙伝』で読んでいて。で、ぐりさんも「グリ」という…。これはもうグリージョがこの作品のキーマンだ！と思いましたね。

浦田（慎）　漫画を導いたのはグリージョだと。

浦田（雅）　影の主人公ですね。そんなことも汲んでくださって、表紙デザインにグリージョが入っていますよね。神の使いみたいなイメージですね。

―― これから読む人へメッセージを。

鈴木　距離を置いて読むのではなく、自分たちをリク、マナに置き換えて、身近にいるような感じで読んでもらえたらいいかなって思います。

浦田（雅）　そうですね。リクとマナというキャラクターは、今の子どもたちをここに反映しようと思って作りました。だからマナはSNS※1などにハマって友達のことばかり気にしているし、リクはさとり世代※2でクールな感じになっています。これは今の子どもたちがどこか持っている気質だと思うんです。なので、単なる偉人漫画ではなく、「自分がドン・ボスコと出会ったら?　自分がリクだったら?　自分がマナだったら?」というように読んでもらえるとありがたいです。

浦田（慎）　「この本を読んでいい人になってほしい」ということではなく、リクもマナも自分らの現実から突如あるところに連れて行かれて、ドン・ボスコという人物に出会って、「自分たちの現実じゃない世界もあるんだ」っていうことに気づくわけですよ。読む人たち、特に中高生の皆さんが、「自分の周りの小さな現実が全てじゃない」ということに気づいてもらえたらいいかなって思います。必ず希望はあるし、そういう希望を伝える人もいる、そういう人や神様に出会える可能性があるっていうね。もちろん、自分がそういう人になれる可能性もある。もっと違う世界もあるし、希望を持ってそういう出会いを楽しみにしてほしいなと思います。

※1　SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。インターネット上のコミュニティでメッセージや写真・動画等の情報を発信・共有するサービスのこと。　※2　さとり世代：1980年半ば以降に生まれた、堅実で高望みしない気質の世代を表す表現。

1800年代のオラトリオと現代

人物の傾向比較

1800年代のイタリア・トリノでは貧富の差も激しく、生きるのに苦労する若者が大勢いた。しかし、ドン・ボスコのオラトリオの子どもたちは、なぜか皆笑顔で生きていた。今の日本の若者たちはどうだろうか。物はあふれ、生活は豊かになったが、心から幸せを感じているだろうか。当時のオラトリオの子どもたちとリク、マナの意識や傾向の違いを比較してみた。

物はあるけど、心は貧しい。

- 夢がもちにくい
- あきらめやすい
- 充実した食生活
- 人付き合いが苦手
- 利己主義
- 物質的に豊か
- 互いへの不信感

＼日本／

現代
リクとマナ

- 人への信頼
- 我慢強い
- 人懐っこい
- 笑顔
- 他人を思いやる
- 元気いっぱい
- 貧しい
- 生きるために必死

＼イタリア／

1800年代
オラトリオの少年たち

物はないけど、心は豊か。

なぜ、今ドン・ボスコなのか？

私たちに不足しがちな3つの要素

ドン・ボスコがオラトリオの子どもたちに常に教えていた現代の私たちが忘れかけているものが３つある。
リクとマナは物語の最後で重要さに気がついた。３つの要素とは、どのようなものだろう。

共同体

element 1 命ある者、孤独では生きられない。分かち合うことの大切さ

解説 オラトリオはまさに、「共同体」だった。その空間にぎゅうぎゅう詰めになって、すべてを分かち合って生きる毎日。「これは自分のもの」と言えないことは多いが、そのぶん、幸せは大きくなり、共に刺激して成長していくことができる。

ささげる

element 2 相手のためにあえて自分をささげること

解説 自分の利益、幸せを求めるのではなく、そばにいる相手がどうやったらもっと幸せになれるか考えること。そしてそのためには自分の利益をおいて、自分を差し出すこと。結果として、ドン・ボスコとオラトリオの子どもたちは笑顔が輝いている。

信じる

element 3 神さまを信じる。人間を信じる

解説 まずは神さまを信じること。自分たちの力を超えた存在が自分たちを見守ってくれていて、決して見放すことはないことを信じられること。だからこそ、その神さまが大切にしているお互いを信じていくこともできる。

ドン・ボスコに会いに行こう！

コラッジョ !! ドン・ボスコの夢は続く

日本発、ドン・ボスコの実話と現代の高校生がクロスするオリジナルストーリーの漫画作品。お求めは書店、ネット書店、ドン・ボスコ社へ。

サレジオ会日本管区 原作
鈴木ぐり 作画
浦田慎二郎 監修
A5 判並製 206 頁
定価 本体 1,000 円＋税

ドン・ボスコに学ぶ

人と触れ合うこと、神さまに頼ることの大切さ

ドン・ボスコの生きた環境と私たちの生きる現代の日本は、ライフスタイルや政治・経済の状況も全く違う。環境は違うが、そこに生きているのは同じ人間だ。彼が生涯情熱を注いで向き合ったのは、国や社会、未来でもなく、人間一人ひとりだった。だからこそ、環境や時代が変わってもその精神は人々を惹きつけ、後に続く者たちが世界中でその精神を引き継ぎ続けているのだ。いくら物質的に豊かになっても、私たちは触れ合いの中に幸せを感じるように神に造られている。ドン・ボスコのように神に全てを委ね、人を愛し続ける姿こそが、世界中の人々を笑顔にしている理由なのだ。

トリノ ヴァルサリチェ

―ドン・ボスコ最期の地―

★イタリア北部ピエモンテ州　トリノ★

文●編集部

ドン・ボスコが息を引き取った寝室

ヴァルドッコで晩年を過ごす

ドン・ボスコが亡くなる2年前の1886年、最後の2部屋と廊下が南側に増築された。祭壇がある部屋とドン・ボスコが亡くなったベッドが置いてある寝室、そしてその奥に作られた「ドン・ボスコのギャラリー」と名付けられた廊下である。その廊下はドン・ボスコが希望し作られたもので、年老いた彼はそこを好んで散歩する場所とし、窓から若者たちの姿をよく眺めていた。現在、廊下にはドン・ボスコが晩年にゆるしの秘跡を授けていた肘掛椅子が置かれている。晩年、大聖堂に降りていくのが困難になってからは、祭壇がある部屋でミサをたてていた。

寝室の左側にある小さな椅子に腰掛け、ドン・ボスコは1887年のクリスマスにコオペラトーリ*へ送るご絵の裏側に最後の言葉を書いた。その5つの文は次のとおりである。

『魂を救う者はすべてを救い、魂を失う者はすべてを失う』

『貧しい者を保護する者は、神の審判で大きな報いを受けるだろう』

『生涯良い業を行う人には大きな報いがある！』

『生きている時に善を行う者は、死に際しても善を見いだす』

『天国ではすべての良いものが得られる、永遠に』

この部屋でサレジオ会員に対して最後の言葉を告げた。ルア神父とカリエロ枢機卿を呼び、彼らの手をとって静かに言った。「兄弟のように愛し合いなさい。助け合い、支え合いなさい」。そして若者たちにも最後のあいさつをした。「若者たちに、天国でみんなを待っていると伝えてください」。

そしてドン・ボスコは1888年1月31日未明に亡くなった。

亡くなった直後、祭服を着せられて肘掛椅子の上に安置された

ドン・ボスコが晩年ミサをささげていた祭壇

ヴァルサリチェ学院。ここで多くのサレジオ会宣教師が養成された。チマッティ神父は神学生時代からここで学んで司祭となり、院長・校長を務めた。ドン・ボスコの遺体は列福される 1929 年までここに安置されていた

ヴァルサリチェのドン・ボスコの墓が最初に置かれた場所

ヴァルサリチェに埋葬される

ドン・ボスコの遺体は1888年2月6日の夕方にヴァルサリチェの墓に納められ、霊廟（れいびょう）が1889年6月22日に落成した。当初扶助者聖マリア大聖堂に納められるはずだったが、市の許可が下りず、共同墓地に行くことになるかと思われた。しかし、市の権威者（クリスピ）が提案し、郊外にあるため墓地規則の規定外であるこの場所に納められることになった。

ヴァルサリチェは元は貴族の生徒たちの学校だったが、うまくいかず、ガスタルディ大司教のたっての願いでドン・ボスコは戸惑いながらも後を引き受けたのだった。すぐには結果が出なかったが、ドン・ボスコはここから司祭召命が生まれることを期待し1879年に購入。するとすぐにこの場所は重要となった。町外れで緑豊かな丘の上。ドン・ボスコはここを休暇と病気や老齢のための人の家、黙想の家として選び、ここで最初の数回、総会も開かれた。1887年にドン・ボスコの望みで大きな改革が起こる。高等学校から、宣教師のための神学校という名で神学生の養成支部になった。ここから世界にサレジオ会の教育システムを世界中に運ぶ人たちが生まれる。ヴェルシリア、カラヴァリオ、ヴァリアラ、チャルトリスキー、ベルトラーミ、そして日本にはチマッティ…。

霊廟は場所を利用して2階建てのようになっている。墓には亡くなった時と同じように司祭服を着たドン・ボスコが描かれている。「ここに司祭ジョヴァンニ・ボスコがキリストの平和のうちに納められている。孤児たちの父、カステルヌオヴォで1815年8月16日生まれ、トリノで1888年1月31日死んだ」。墓のそばから2つの階段を上るとテラスがあり、その上にゴシック様式の教会が建てられている。ドン・ボスコの死から10年後、教え子たちは聖フランシスコ・サレジオにささげられた教会を建てた。コオペラトーリとヨーロッパ、アメリカ管区の寄付が大きな助けになった。

ドン・ボスコの墓はすぐにサレジオ会員のみならず、カトリック信徒やカトリック団体の巡礼地、精神的なよりどころとなった。彼の遺体は1929年（列福の年）までヴァルサリチェに安置されていた。ドン・ボスコの列福調査は数人の枢機卿の反対もあり、困難を極めたが、彼を直接知っていた教皇ピオ11世が彼を福者にすることを強く推し進めた。ドン・ボスコの遺体は列福式の後、6月9日にそのために作曲された「Giu dai colli（丘を下って）」の歌とともに荘厳に扶助者聖マリア大聖堂に運ばれた。

ドン・ボスコは1934年の復活祭に同じくピオ11世によって列聖された。彼には「青少年の父、教師」という称号が与えられた。

現在ドン・ボスコの墓はトリノ・ヴァルドッコの扶助者聖マリア大聖堂の中にある

*コオペラトーリ＝サレジアニ・コオペラトーリ。サレジオ会やサレジアン・シスターズの指導を受けながら、協働者として生きる一般信徒の会のこと。

世界のサレジオ家族ニュース

World Salesian Family NEWS

ネパール

ドン・ボスコ救援チームによる地震被災者救援

ネパールのサレジオ会は、2015年4月25日の地震発生直後から「ドン・ボスコ救援チーム」を立ち上げ、支援の届いていない所へ活動範囲を広げている。

国内29地区のうち5つの地区の11の村、約2500世帯に、食糧（米、ダール豆など）、テント用のビニールシートなどを届けている。山奥の村々は、多くの犠牲者が出たところ、すべての家屋が倒壊したところもある。サレジオ会の経済的支援を受け、女子修道会が救援活動を行っているゴルカ地区もある。

衝撃を受け不安の中にある人々が穏やかに試練を受け入れていること、持っているわずかなものを互いに分かち合おうとしている姿を、チームのメンバーたちは伝えている。

サレジアン・シスターズは苦労の末、カヴレ県とラメチャプ・マンタリ・バジャルの山奥の村々、数百世帯に救援物資を届けた。これらの地域もほかの支援が届かず、食糧は底をついている。元々貧困にあえぎ、地震によってわずかに持っていたものも失った人々が、その苦しみを和らげ、見捨てられていると感じないようにと、シスターたちは願っている。サレジアン・シスターズの運営する寮の少女たちは、山村の家族と連絡を取り、現状の把握に努めながら、家族との再会を望んでいる。シスターと寮生たちは、山村への救援活動を続けている。

宣教事務局、NGO、基金など、世界のサレジオ家族の連帯のおかげで、インドのコーディネーターたちによって用意され、食糧・生活必需品を載せた4台のトラックがカトマンズに入った。60トンの食糧、仮設テント用の帆布を、サレジオ会員、サレジアン・シスターズ、教職員、学生、ボランティアらが被災者に配布することができた。各家庭は25kgの米、2.5kgのダール豆、油2ℓ、塩1kg、雨、夜の寒さをしのぐための帆布を受け取っている。被災者にとっては、まず生き延びることが課題である。

ドン・ボスコ救援チームのメンバーたち

サレジオ会家族は優先する支援を次のように決めた。〝食糧とシェルター用資材の配布、親を亡くした子どものための活動を開始する、子どもの人身売買ネットワークの阻止、子どもたちができるだけ早く勉強を再開すること〟

政府は、倒壊の恐れがあるため家屋の中で過ごすことを禁止、サレジオ会は施設のグランドを解放し、避難所や診療所を設けた。

インド・ネパールの教皇大使サルヴァトーレ・ペンナッキオ大司教はネパールのサレジオ会に現状とニーズについて尋ね、サレジオ家族の救援活動を賞賛した。教皇大使はドン・ボスコ救援チームの担当者に会い、活動を支援したいと語った。

「主よ、揺れはもう十分です……私たち罪びとをあわれんでください、もう地震をゆるさないでください。あなたの子である私たちは祈ります……母マリア、私たちを守り、皆のために取りなしてください」。5月12日の大きな余震の数時間後、ネパールのサレジオ会のフェースブックに掲載されたこの祈りは、ネパールのすべての人々の祈りでもある。

ネパール地震被災者
救援活動支援のための
ご寄付のお願い

下記の振込口座まで（または本誌とじ込みの振込用紙にて）ご寄付をお願い申し上げます。
郵便振替
口座番号　00100-7-412947
加入者名　「ドン・ボスコの風」編集事務局
※通信欄のご寄付意向にチェックを入れて、ご寄付金額を明記ください。

EAO（東アジア・オセアニア地域）

フェルナンデス総長、太平洋・オセアニアを訪問

サレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父は、2015年4月29日から5月17日まで3週間にわたり太平洋・オセアニアの6か国を訪問した。サレジオ会フィリピン北管区に所属するパプアニューギニアとソロモン諸島、オーストラリア・太平洋管区のフィジー、サモア、ニュージーランド、オーストラリアである。そのうちソロモン諸島、フィジー、ニュージーランドはサレジオ会総長を初めて迎えた。地域顧問のヴァツラフ・クレメンテ神父と総長秘書のオラシオ・ロペス神父が同行した。

長旅の移動は、総長訪問直後にパプアニューギニアで起きた地震によってフィジーに向かう便が遅れるなど苦労もあり、震源地のドン・ボスコ学校の被害も心配されたが、ドン・ボスコの後継者がはるばるローマから小さな島々を訪れたことで、各地のサレジオ会員、サレジオ家族、若者、信徒は大いに勇気づけられ、総長と互いに耳を傾ける時を持ち、喜びを分かち合い、絆を強く結ぶ訪問となった。

またそれぞれの訪問地で、教会、政治のリーダーとも会談、フェルナンデス総長は喜びをもって迎えられ、青少年のより良い未来、ひいてはより良い社会を建設するためのサレジオ会の貢献は高く評価され、感謝された。

17日夜、ローマに向けて発ったフェルナンデス総長は、太平洋・オセアニア地域の6か国にある挑戦・課題を残した。各国訪問中、サレジアニ・コオペラトーリ管区組織を立ち上げる必要性を訴えた。

パプアニューギニアのドン・ボスコ技術訓練校での文化の集いで。「文化は聖なるものです。大切にしてください」

5月11日午後、サモアのドン・ボスコ技術訓練校の生徒44人と「ドン・ボスコ200号」を漕ぐ総長

オーストラリア・メルボルンの聖ヨセフ高校に3つのサレジオ学校の生徒たちが集い、ユース・フォーラムを開催。

イタリア

ミラノ国際博覧会で「カーザ・ドン・ボスコ」オープン

2015年5月1日、ミラノ国際博覧会に、サレジオ家族によるパビリオン、「カーザ・ドン・ボスコ（ドン・ボスコの家）」が開所した。サレジオ家族が国際博覧会で訴えようとしているのは、地球の持続可能な未来のために、必ず報われる2つのことに賭けなければならないということ。それは、教育を選ぶこと、そして若者が重要な役割を果たすことである。ドン・ボスコは言っている。「若者は人間社会の最も貴重で、配慮を必要とする部分です。」

パビリオンは家のようなデザインで、安心していられるところ、休めるところ、心のよりどころを表しており、連日さまざまなイベントが行われている。ミラノ国際博覧会は10月31日まで開催される。

「カーザ・ドン・ボスコ」の外観

カーザ・ドン・ボスコで行われるイベントなど
詳細は www.expodonbosco2015.org

イタリア

教皇フランシスコ、トリノを訪問

2015年6月21日、教皇を迎えたトリノの街は数多くの人であふれた。教皇は午前、労働界の人々との集い、聖骸布（せいがいふ）の崇敬、ヴィットリオ広場でのミサ、移民の家族と少年刑務所の11人の若者たちとの昼食に同席した後、午後はヴァルドッコの扶助者聖マリア大聖堂を訪れ、サレジオ家族と分かち合いのひとときを過ごされた。

教皇は30分以上にわたり、サレジオの学校の生徒だったころのこと、扶助者聖マリアへの信心、家族の友人だった多くのサレジオ会員から影響を受けたことなど、「サレジオ会員たちから、人生にたくさんの大きな贈り物をもらい、心から感謝しています！」と自らのサレジオ的ルーツについて分かち合った。また、ドン・ボスコの「3つの愛（聖体・マリア・教皇）」に含まれる母性を取り上げてマリアについて語ったほか、若者が喜びと自己を与える体験を通して変容されるためには、愛情・情緒面の成熟に深く配慮する教育の大切さを語った。

遊び場から始まり、人生に備えるための職業訓練に至るサレジオの教育スタイルへの教皇の高い評価は、ドン・ボスコへの深い愛情を示すものだった。

ドン・ボスコの墓の前で祈る教皇フランシスコ

BICENTENARY OF BIRTH NEWS

ドン・ボスコ生誕200周年ニュース

ダイジェスト版

2015年8月16日のドン・ボスコ生誕200周年を祝って、世界・日本の各地で記念イベントが活発に行われています。Facebook「ドン・ボスコの風」でも日々お伝えしていますが、その中から少し紹介します。

（誌面の都合で紹介できなかった皆さん、ゴメンなさい！）

文・写真 ● 各地より提供

BICENTENARY OF BIRTH 1815 • DON BOSCO • 2015

2015年 1月31日

この日は毎年、世界中のカトリック教会で記念されるドン・ボスコの帰天日。「九日間の祈り」や「三日間の祈り」で心静かな時を過ごし、記念日当日はミサとイベントで盛り上がりました。

カトリック碑文谷教会（目黒）では、1月25日、400人以上が集まりお祝いしました。ミサ後は恒例の餅つき、スポーツ大会を楽しみました。

星美ホーム心のふるさと（赤羽・同窓会）では、1月12日、成人の祝いと同窓会、そして200周年を祝いました。

カトリック下井草教会（杉並）では、1月25日、教会学校の子どもたちがドン・ボスコの劇を熱演しました。

サレジオ会管区長館（四谷）では、1月30日に四谷支部・ドン・ボスコ社の皆さんとミサ。翌31日はADMAの皆さんとミサ、夜は駐日教皇大使チェノットゥ大司教が訪問され、記念ミサをささげてくださいました。

親愛園（長崎）では、1月30日、ドン・ボスコの歌を歌ったり、園長先生がドン・ボスコの絵本を読みきかせたりしました。小さい頃のドン・ボスコの話に、子どもたちはいろいろな感想を言っていました。

カトリック別府教会（大分）では、1月25日、浜口司教様と記念ミサをささげました。

イエスのカリタス修道女会管区本部（杉並）では、1月25日の管区デーにドン・ボスコのオペレッタが上演されました。

カトリック調布教会（東京）では、1月25日、記念ミサを行った後、毎年恒例の新年会。バースデーケーキも登場！

星美ホーム（赤羽）では、1月31日、恒例のアカデミア（演芸会）を開催。絵のコンテストや、アカデミアでは歌、ダンス、お笑いなど充実した演目を披露しました。

2015年 1月31日

サレジオ会宮崎修道院では、浜口司教様が来てくださり、サレジオ家族いっしょに記念日を祝いました。

静岡サレジオ小学校・中学校・高等学校（静岡）では、1月31日、ドン・ボスコフェスティバルを開催。オペレッタやダンス、大道芸、高校生の「夢」のプレゼンテーション、ビンゴ大会など、大いに盛り上がりました。

四日市サレジオ志願院（三重）では、2月1日、ドン・ボスコ祭で劇を上演。現在の志願生13人の年齢を全部足すと、ピッタリ200になるそうです！

カトリック碑文谷教会（目黒）のサレジオ日曜学校では、2月8日、ドン・ボスコかるた大会を行いました。五七五のリズムで、ドン・ボスコの生き方がよくわかる、すばらしいかるたです！

カトリック海の星幼稚園（別府）の「ドン・ボスコぬりえ」。カラフルなドン・ボスコでお祝いです。

2015年 EVENTS 各地でのイベント

サレジオ学院（横浜）の中学3年生が、3月23～29日、イタリア研修旅行へ。トリノ・ヴァルドッコのドン・ボスコゆかりの地も訪ねました。

カトリック浜松教会では、4月12日、「サレジオ祭り」を開催。ブラジル等南米の国、フィリピン、日本のメンバーたちが、1つの家族として祭りを準備し、さまざまな国籍のお客さまを迎えました。「テアトロ・ドン・ボスコ」というグループは、ドン・ボスコの人生を歌や劇で紹介しました。

杉並サイテックにて、2月14日、関東地区のサレジオ霊性セミナーが行われ、約130名が参加。DB200の熱気に包まれていました。

扶助者聖母の祝日、5月24日に、イエスのカリタス修道女会の修練志願者がドン・ボスコ＆マリア様ツーショットクッキーに挑戦しました！

カトリック海の星幼稚園（別府）の皆さんが、DB200テーマソング「道標」を手話付きで元気いっぱいに歌ってくれました。

Salesian Youth DAY DB200周年特別企画巡礼レポート

テーマ：今こそ、ドン・ボスコの火を燃え立たせよう！

青年ナイト・ウォーキング巡礼に参加しました！

2015年4月25～26日、ドン・ボスコ生誕200周年にあたり、
サレジオ家族3修道会の主要スポットを巡るナイト・ウォーキングが敢行されました。
「ドン・ボスコの火」とともに、総勢50名以上が参加、無事全員が全長23.7kmの
道のりを歩き切りました。参加者たちの体験を読者の皆さんと分かち合います。

取材・文・写真 ● SYDスタッフ

すっかり仲良くなった参加者たち！おしゃべりしながら楽しく歩きます

いぇーい！カリタス本部修道院まであと少し！

初めて出会った仲間たちとも徐々に打ち解けて…

筋肉痛が…

三鷹の森ジブリ美術館前で休憩。つかれましたね、でもみなさんいい笑顔です

最終目的地へ出発！

17:00➡赤羽に集合。夕食とレクリエーション、ドン・ボスコの勉強など準備万端！

22:30➡お祈りの後、「DBの火」を持って、元気に「いってきま～す！」

1:30➡カリタス本部修道院に到着。シスターたちが温かい言葉と祈りと食事で迎えてくださいました。よし、残り半分ガンバロー！

もうちょっとだから、「歩き切るぞ！」

5:30➡全員元気に調布サレジオに到着！ 朝のミサや昼食、振り返りの時間の中で、「参加してよかった！」の声が聞けました！

参加者感想

「サレジオ家族として多くの人とつながってること、支えられていることを感じながらの2日間だった」（10代・女性）

「こんなに人が集まる企画は初めて！ 無茶に見える内容なのに50名も参加していて、びっくり！ 教会や学校などからの多様なメンバーでの交わりができて、楽しかった！ 皆さんにありがとうを言いたい！」（20代・男性）

「ドン・ボスコを通して神さまから示されている道を共に歩むものとしての一体感を感じた」（20代・女性）

2015年 EVENTS

6月6日、中高生のSalesian Youth Day!! DB杯スポーツ大会＆お泊り企画！ 赤羽サレジアン・シスターズ修学院に集合し、スポーツ大会を開催。翌日は碑文谷教会のミサに参加後、交流を深めました。

サレジアニ・コオペラトーリとDBVG（ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ）の合同企画として、1月31日、みことばの祭儀で神様に感謝をしたあと、DBVG名物の「ドン・ボスコまんじゅう」200個を用いて「DB200オメデトウ」の文字をつくりました☆特製のちらし寿司とともに、おめでとうございます(^^)/

「チャレンジ200！」プロジェクト募集中！

「生誕200周年」とかけて「200」をテーマにしたアイデアを大募集！ さあ、あなたは何にチャレンジしますか？

写真・動画の送付先は
db200@salesians.jp まで

ウニオーネ本部（扶助者聖母会同窓会連合）の皆さんが、千人針ならぬ「200人針」にチャレンジしています！

生誕200周年（1815～2015年）ということで1815mと2015mの山に登ろう！企画が進行中。ちょうどその標高の山が見つからず…ドン・ボスコの柔軟性と創造性にならい!? 福島・磐梯山（1816m）と東京・雲取山（2017m）で良しとするかと協議中（笑）

「ドン・ボスコ体操」生誕200周年Ver.踊ってみた――「ドン・ボスコ体操」を最高にハッピーに踊ろう！ 学校で、幼稚園、クラブ、職場、教会、修道院で… みんなで一緒に踊っている様子を動画に撮ってシェアしよう！

YouTubeで検索してみてね

ドン・ボスコくん200km・チャレンジウォーク。東京・日本橋から始まり、陸奥・白河の関に向けてドン・ボスコくんが歩いてます。がんばれ！

DB200記念グッズ

Don Bosco Japanの「DBJ」ロゴ入りTシャツに、話題の漫画『コラッジョ!!』のイラストをあしらったTシャツも。オシャレな色合いで、どれにするか迷っちゃいますね！ 全色そろえちゃおうかしら…

絶賛販売中！

「ドン・ボスコTシャツ」やクリアファイル、うちわなど、記念グッズはドン・ボスコ社ネットショップ
http://www.donboscosha.com

ドン・ボスコ生誕200周年 1815 2015 BICENTENARY OF BIRTH 記念コンテスト受賞者の声

2013年に子どもから大人まで計1700点以上、のべ2800人を超える応募をいただいた、ドン・ボスコ生誕200周年記念コンテスト。今年1月に発表された受賞者の皆さんから、受賞の喜びとドン・ボスコの200回目の誕生日へのおめでとうメッセージをいただきました。

ドン・ボスコ賞

城星学園中学校1年生

寺村 麻由 さん

中学生活が始まり早くも2カ月がたち、電車通学にもようやく慣れて新しい友達もたくさんできて毎日楽しく学校へ通っています。もうすぐ初めての中間テストがあるので頑張っています。中学校ではお祈りの時間はありませんが、私の心の中にはいつもマリア様、イエス様がいていつも自然にお祈りをしています。これからもきっと見守ってくれると思っています。この絵は少年たちを見守るドン・ボスコを想像して描きました。ドン・ボスコの優しい表情と少年たちが非行から立ち直ろうとしている表情が分かってもらえたらうれしいです。

「ドンボスコとすくすく育つ少年」

2013年当時 城星学園小学校5年

ドン・ボスコ賞

大阪星光学院高等学校3年生

清水 智也 さん

僕たちの作品を選んでいただき、本当に光栄です。こうして、無事に作品が完成することができたのも、先生方やクラスのみんなのおかげであり、僕自身本当に感謝しています。この曲のテーマは「人と人との繋がり」です。あなたには大切に思っている人がいるでしょう。同時にあなたの事を大切に思ってくれる人もいます。だからこそ、僕達は、自分の為に、大切に思ってくれている人の為に今日そして明日も生きていかなければならないのです。この曲を聴いて「よし、今日も頑張ろう。」という気持ちになっていただけたら幸いです。

「君のいる明日」

2013年当時 大阪星光学院高等学校61期1年B組
ドン・ボスコのタマゴ委員会さん
（作詞・作曲　清水智也さん）

ドン・ボスコ賞

中学校1年生

越野 平十郎 さん

デザインを考えるとき、はじめに決めたことは、“笑顔のボスコ様と地球”です。ボスコ様は、太陽のようにいつでも僕たちを見守り正しい方向へ導いてくださいます。地球のすべての人々が正しい考えをもって、命を尊重すれば、戦争のない平和な地球になる日が必ず来ます。このデザインで、僕たちがボスコ様に感謝し生誕200年をお祝いしていることを表現しました。

「VIVA DON BOSCO」

2013年当時 星美学園小学校5年

ドメニコ・サヴィオ賞

目黒星美学園小学校英語科教員

矢崎 則子 さん

5年生全員が出演する英語劇「ドン・ボスコは君たちのもの（Our Greatest Father, Don Bosco）」は、授業と休み時間を使い、教員と子どもたちが一致団結して真剣に取り組んだ作品です。その結果の受賞に5年生皆の喜びも大きかったと思います。

フィナーレに、ドン・ボスコが少年たちに向けて語る台詞（せりふ）があります。「ありがとう、ありがとう、みんな。私は君たちと共にいて幸せだ。君たちが私の幸せだ。君たちは私の友達だ。私は神様に誓ったんだ。君たちのために私は生き、働き続けると。それが私の幸せだ。それが私の人生だ。」このドン・ボスコの台詞のように、教員が子どもと共に歩んでいくこと、そして、ドン・ボスコが残してくださったメッセージを、生き様で子どもたちに伝えていくことをこれからも大切にしていきたいと思います。

A

B

C

「Don Bosco, We love you」 A

2013年当時 目黒星美学園小学校5年A組

「Joy and Happiness」 B

2013年当時 目黒星美学園小学校5年B組

「Our Mother Mary」 C

2013年当時 目黒星美学園小学校5年C組

（全て作詞　目黒星美学園小学校英語科教員・作曲　大滝恵さん〔41期卒業生〕）

スマイル賞

静岡サレジオ小学校4年生

野口 美優 さん

ドン・ボスコの言った言葉の中に、学校で大切にしている言葉があります。それは「たゆまぬ努力」と「君とぼくで半分こしよう」です。どちらともわたしにはとてもいい言葉です。わたしは、まさかスマイル賞を取れるとは思っていませんでした。でも今は、神様のお導きでこのスマイル賞という賞が取れたと思います。わたしたちは、ドン・ボスコがいたのでこのサレジオ小学校という学校はできたのだと思います。ドン・ボスコにならい、だれとでも音楽でなかよしになれたらいいなと思います。

「子どもとドン・ボスコが
ドンボスコのわを歌っているよ。」

2013年当時 静岡サレジオ小学校2年

コスモ賞

星美学園中学校2年生

髙橋 真美 さん

この度は、このような賞をいただくことができ、本当にうれしく思います。200年前、ドン・ボスコが誕生し、成長して青少年を導いていったように、私たちも世界各地のドン・ボスコの学校の方々とつながれたら良いと思います。そして、ドン・ボスコの意志を私たちが受け継げたら良いと思います。これを機に、今年8月16日みんなでドン・ボスコの誕生200周年を祝えたら良いと思います。本当にありがとうございました。

「わく星とドンボスコはつながる」

2013年当時 星美学園小学校6年

グリージョ賞

目黒星美小学校4年生

宮澤 華菜 さん

わたしは、賞をもらって、この絵を通してドン・ボスコの思いが伝わるといいなと思います。絵は、ドン・ボスコが子どもが好きだったことを考えながらかきました。生誕200周年にあたって、これからもずっと、ドン・ボスコの心が残されるようになってほしいです。わたしも、ドン・ボスコのことを伝えていけるようにがんばりたいです。

「ドン・ボスコと子どもたち」

2013年当時 目黒星美学園小学校2年

ひまわり賞

ウニオーネ

宗 映子 さん

私が小学生の時に習ったドン・ボスコの歌は「聖者ドン・ボスコ…ドン・ボスコよ、日本国のわらべをも天国に～」という詞でした。ドン・ボスコ生誕200周年のシンボルが「ひまわり」だと聞いた時、日本の子どもがドン・ボスコにひまわりの花を捧げるイメージが思い浮かびました。数年前に趣味で始めたパステルで描いてみました。成人の作品が少ないというので応募したのですが、選んでいただき光栄です。

「ひまわり」

2013年当時 ウニオーネ（扶助者聖母会同窓会）

アミーコ賞

星美ホーム

なんでもバンドの皆さん

アミーコ賞受賞と聞いた時は、驚くと同時に、「わーっ」と大手を上げて喜んでしまいました。企画の発端は歌が大好きなシスター方からの発案でした。この機会を得て感じたことは、何かを表すとき、恥ずかしいと思ったとしても、それを払拭して表現することで、そこに大きな楽しみと一体感が湧き出るのだということです。今度のアカデミアもきっと盛り上げていきますし、また、お祝いのための御ミサやパーティーも星美ホームの子どもも職員も喜んで、楽しめるように、と企画しています。この機会に改めてドン・ボスコに倣い、実践していく目標を確認しました。ありがとうございました。

「Padre Maestro ed amico」

ファミリア賞

コオペラトーリ会員・日向学院教員

上村 幸一郎 さん

以前からドン・ボスコのことば、特に「Niente ti turbi!（心配するな）」「Faccio io!（私がやります）」を歌にして、それを歌うことを通して祈り、黙想し、そしてそのことばを生きていければと考えていたのですが、200周年という記念の年に当たり、ようやくその思いを実現することができました。撮影も、家族と田村宣行神父様とで楽しく行うことができました。素敵な賞をいただき、そしてまた、さまざまな場所で歌っていただいているとお聞きし、とても光栄に思っています。

「ドン・ボスコのことばを」

2013年当時 田村神父様＆上村ファミリーの皆さん
（作詞・作曲：上村幸一郎さん）

デザイン賞

サレジオ高専3年生

中村 弓真 さん

Tシャツのデザインは初期段階から決まっていました。まさか自分が受賞するとは思っていませんでした。200周年という大きな節目に居合わせることができ、とても光栄です。これからも300周年、400周年とドン・ボスコの歴史を刻んでいってほしいです。

「We loveドン・ボスコ」

2013年当時 サレジオ高専1年

ジョイア賞

目黒星美中学校3年生

金子 ゆづ さん

ドン・ボスコは、貧しい少年たちのために、友達や学校を提供しました。そんなドン・ボスコのことを大好きだった子どもたちが、ドン・ボスコと仲良く遊んでいる様子が一番印象に残ったので、この絵を描きました。受賞できて良かったです。ありがとうございました。

（教員のコメント）現在は中学3年生、生徒会の役員として、他の役員と協力しながら、しっかりとその役割を果たしてくれています。

「ステンドグラスと子供達」

2013年当時 目黒星美学園中学校1年

ジョヴァンニーノ賞

星美学園小学校4年生

中島 玖良（くら） さん

この賞は、私が初めていただいた大きな、大きな賞です。このプレゼントは、一生の宝物です。この絵を描くときには、「神様は、いつも見守って下さっている」ということを聞いたヨハネが、お祈りをしながら、たくさんの喜びにあふれていることを想像しながら描きました。この賞をもらったことを励みにし、この賞にふさわしい人になるようにがんばります。

「ヨハネおいのりする。」

2013年当時 星美学園小学校2年

＼ voice of the prize winners ／

記念コンテストウェブ作品展は下記URLで公開中です！

http://salesians.jp/db200-contest

連載インタビュー

DBの教え子たち

ドン・ボスコ

サレジオ学院の生徒で知らない人はいない先生がいる。長年サレジオ学院の体育教員・担任・サッカー部顧問として数え切れない程の青少年たちを、アシステンツァの姿勢で優しく、厳しく見守ってきた名物先生。現在同学院の法人事務局長を努める長岡洋一さんにお話を聞いた。

★★★

サレジオに入ったきっかけは？

地元は横浜市神奈川区です。浦島太郎伝説でも有名なところで、通ったのは浦島小学校です。浜の子でやんちゃであったことと、当時、公立中学校も荒れていたということもあって、両親はカトリック学校に私を入れたかったようです。それでイエズス会の栄光学園中学校を受験しましたが、二次試験の面接と作文で不合格でした。ところが、私を含め二次試験で落ちた横浜方面の子のところに、なぜかできたばかりの目黒サレジオ中学校（当時）から募集の手紙が届きました。どうもイエズス会とサレジオ会の中で何か話があったのでしょうね。両親は喜びました。それで目黒サレジオ中学校に入りました。私たちは2期生になります。

カトリック碑文谷教会の影に隠れた小さい箱型の建物が中学校でした。入学式は屋上でしました。校長は初代のニコロ・タッサン神父でした。印象深かったのは、昼休みにグラウンドでスータン（聖職者の黒い服）を着た神父さんたちと一緒にサッカーをしたこと。スータンなのにすごく上手でした。今思うと、理想とするドン・ボスコの学校だったと思います。子どもたちと一緒にいる神父さんたちがいました。

3年後、私たちの進学に合わせてできたばかりのサレジオ高等学校（川崎市高津区鷺沼。その後、目黒サレジオ中学校も同地に移転し中高一貫校に）にそのまま進学しました。1期生、2期生というのは何をしても初めてのことばかり。施設も不十分でしたが、先生たちと一緒にいろいろ工夫したのでやりがいがありました。周囲にも自然が残っていて、ある日の朝礼で先生が「今日から猟が解禁だから藪のなかに入っていくなよ。誤って撃たれるから」と言うんです。近くでは猟犬を連れて鉄砲もった猟師が、ウサギやコジュケイを散弾銃で狙っていました。私たちもウズラの巣を見つけては卵を取り、科学室に忍び込んで、ビーカーでゆでて食べていました。

その後、母校の教員になったきっかけは？

教わった体育の先生の影響もあって、先生をちょっとやってみたいな、やるなら体育がいいかなと思いましたので、高3の2学期に進路変更をして日本体育大学の体育学部を受験しました。

大学を卒業したら地元の横浜市立で教員をやるつもりでしたが、暮れに、中1のときの担任で、そのとき校長になっていた小此木神父から「サレジオで教員やらないか」と電話がありました。かつて迷惑をかけていましたので「行きます」と。卒業生で最初の教員です。もともと長くやるつもりはなかったのですが、結局38年教員として勤めました。

教師として生徒とのふれあいは楽しかったです。担任が一番やりがいがありました。サッカー部の顧問も長くやりました。生徒指導部長も任されましたが、最初は若さと強さと勢いで校則を守らせることが生徒を指導するものだと思っていました。でも不登校の子と関わって以降、カウンセリングなども大事だなと思い、勉強もしました。生徒から教わって自分の幅が広くなった気がします。

卒業生たちが遊びにきてくれるのが財産です。生徒のために何かを犠牲にすることはマイナスではなく、後で必ず喜びとして卒業生から戻ってきます。長くサレジオに関わってきましたが、一つ大事なことを挙げろと言われれば、やはりアシステンツァだと思います。共にいること、物理的、空間的、時間的だけでなく、精神的にも生徒のことを気にしてあげるということです。

実は教師になってからしばらくはカトリックの学校であることをあまり意識していませんでした。でもその後、望まない悲しいことがあったときなどに、みんなで祈って心を一つにするということのすばらしさを実感することが何度もありました。卒業生の何人かからも聞きます。「先生、当時は何にも思わなかったけど、あのときにカトリックの学校にいたことが自分のためになっています」と。家庭をもったとき、親になったとき、辛いことに出会ったときに何か感じるときが来るんですね。この環境にいたということが後になって何か方向を与えてくれるのかなと思います。

「やるべきことは必ずやること。そしてやりたいことを必ずやること。」

若い人たちへのメッセージを。

やるべきことは必ずやること。そしてやりたいことを必ずやること。どちらかだけだとダメです。やるべきことと、決まりごとや人間としてやるべき務めです。やりたいことは躊躇してやらないよりも、チャレンジして失敗したほうが必ず自分のためになります。今の若者はやるべきことは結構やるけれど、やりたいことを抑える子が多い感じです。失敗をしてしまったらという不安や恐れがあって、安全策をとってしまう。でもやらなかった失敗すらできないんです。失敗してもそれが一番自分の糧になるはずです。

それから特に男の子に言いたいのですが、男には強さとやさしさが必要だと思います。けれど強さは後からでも身につけられますが、やさしさは後からは身につけられません。だから、若いときにやさしさについて学んで欲しいです。社会に出れば競争することがいくらでもあって、それで強くなれるでしょう。けれど、自分さえよければいいというのではなくて、人の気持ちを考えること、仲間のことを思いやるやさしさを今のうちに身につけていって欲しいですね。★

試合での一コマ。
サッカー部員たちに檄を飛ばす

サレジオ学院中学校・高等学校

神奈川県横浜市都筑区南山田 3-34-1
www.salesio-gakuin.ed.jp

横浜市都筑区にあるサレジオ学院の校門前で。長く青少年を見守ってきた眼差しは、優しい

No.19 ★ サレジオ学院 法人事務局長 長岡 洋一（ながおか よういち）さん

★サレジオ歴★ サレジオ学院中学校・高等学校
（旧目黒サレジオ中学校・旧サレジオ高等学校）

プロフィール

1949年横浜市生まれ。1961年目黒サレジオ中学校入学。1967年サレジオ高等学校卒業。1971年から川崎サレジオ中学校・高等学校の体育教員として奉職。2009年から同校の事務長。奉職45年目の現在・学校法人サレジオ学院 事務局長を務める。

Essay

“サレジオ”の精神とは?

～聖フランシスコ・サレジオにならう～

文●浦田慎二郎

聖フランシスコ・サレジオ教会前の広場よりチャー運河に浮かぶパレ・ド・リル（島の宮殿）を望む。アヌシーの観光名所の一つ

サレジオとドン・ボスコ

「サレジオ会」の名前の由来である、聖フランシスコ・サレジオは17世紀に主にフランスで活躍した司教です。彼は当時のプロテスタント対カトリックという難しい関係の中で、柔和と愛によって人々の魂を獲得していくことの大切さを訴えました。

自分の創立した修道会を、この聖人の名前からとったドン・ボスコ。彼はなぜサレジオを保護者としたのでしょうか。その理由は非常に端的に彼の言葉の中に見いだすことができます。

「わたしたちの役務を果たすために大いなる穏やかさと柔和が必要ですから、この聖人の保護のもとに身を置き、その並はずれた柔和と人びとの好意を得る魅力が、わたしたちのものになる恵みを取り次いでいただくためです。さらにもう一つの理由を加えれば、キリスト教の中の他の諸宗派の教えからカトリック信仰を擁護する活動において、わたしたちが同聖人の保護のもとに、同聖人に倣う恵みを天から得るということです」（『オラトリオ回想録』より）。

つまり、大きくわけて二つ理由がある、ということです。

「柔和」のモデル

一つ目は、自分たちの使命である青少年の教育のために、サレジオの特徴である「柔和」をモデルとしたい、ということ。ドン・ボスコは、助けを必要とする貧しい少年たちを相手にしていました。そこで求められていることは、厳しさによって彼らを導くことではなく、優しさ、温かさによって彼らを導く、ということでした。これは、ドン・ボスコが9歳の時に見たと言われる夢の中にすでに神から示されていました。夢の中でドン・ボスコは汚い言葉を使って暴れまわっている少年たちに殴りかかっていきますが、イエスと思われる人物が現れて、「暴力はいけない。柔和と愛をもってこの子どもたちの友達になるのだよ」と言うのです。もちろん、この夢をみたときに、ドン・ボスコはフランシスコ・サレジオのことは意識していなかったでしょう。ただ、ドン・ボスコは神学校時代に、地元出身の有名な聖人であったサレジオについていろいろな話を聞いていましたし、本も読んでいました。その中で、サレジオが自分の目指す使命とその方法のモデルとしてまさにぴったりの人物であることがわかったのではないでしょうか。

「信仰」の守護を願って

もう一つの理由は、当時のトリノではカトリックとプロテスタントの間に今では考えられない緊張関係があり、それはサレジオがその二百年前に生きた状況と似た部分があったのです。ドン・ボスコもその時代の子ですから、それから逃れることはできず、何とかしてカトリックの教えを守らなくてはいけないと感じていました。その点でもサレジオはモデルとなる人物だったのです。

もう一つの点として考えられるのは、サレジオは今でも作家・ジャーナリストの保護者であり、ドン・ボスコはその部分でも彼に追従していた、ということが考えられます。

また、もっと単純で、実は一番大きな理由かもしれない要素があります。それはドン・ボスコとフランシスコ・サレジオは同じ国の出身だったということです。フランシスコ・サレジオはサヴォイア王国の出身で、そこで活躍した人物です。ドン・ボスコが生まれたとき、まだイタリアは統一されておらず、彼はサルデーニャ王国という国の出身でした。このサルデーニャ王国の前身はサヴォイア王国で、実際サヴォイア家が王家を継いでいたのでした。ですから、ドン・ボスコの地元ではフランシスコ・サレジオはとても有名で人気のある聖人であり、神学校でも当然彼についてよく紹介されていました。ドン・ボスコにとって、とてもなじみ深い聖人であったということなのです。

浦田慎二郎 うらた しんじろう

サレジオ会司祭。サレジオ学院卒。教皇庁立サレジオ大学大学院霊性神学博士課程修了、神学博士号取得。ドン・ボスコの研究家。現在サイテック館長。

故郷フランス・アヌシーの湖畔に立つ聖フランシスコ・サレジオの像

ありがとう！木村重雄さん
社会のために捧げた第二の人生

第二次世界大戦前に育ち、戦後の高度経済成長期に企業人としてフルに活動し、海外にも打って出た職業人生。一転して、退職後はまったく畑違いの分野で人の求めに応じて捧げていった第二の人生とは。

カトリック調布教会での大聖グレゴリオ騎士団勲章受章式にて。教皇大使アルベルト・ボッターリ・カステッロ師（当時、右）と故アルド・チプリアニ管区長（左）と木村さん夫妻

●企業人としての45年間

木村重雄さんは1926年12月18日、熊本市に生まれた。旧制熊本中学（現熊本高校）、熊本工業専門学校機械工学科で学ぶ。終戦後の1947年、日本セメント（現太平洋セメント）に入社。エンジニアとしてのキャリアを中心に国内各地の工場建設などに携わり、その経験が高く評価され、マレーシア、タイ、インドネシア、インドなど海外にも技術支援のために派遣される。その後、役員として経営に携わり、専務取締役、常務監査役を経て1992年、65歳で退社。

私生活では、最初の赴任先の高知で妻・繁子さんと出会い結婚。一女一男に恵まれる。カトリックとの出会いのきっかけは、香春製鋼所（福岡県田川郡香春町）へ赴任時に、長男の彰男さんが北九州市の明治学園中学校（コングレガシオン・ド・ノートルダム）に通ったこと。「人生の転機がどういうきっかけで起こるか、人間には前もって判らない。けれど神の拡げられた網にそのとき引っかかったのは間違いない」。繁子さんが1979年に東京の赤堤教会で受洗。木村さんも1987年に調布教会にて溝部脩神父（当時）より受洗。長男・彰男さんも2002年に受洗した。

●サレジオ会の支え役として

木村さんは日本セメントを退社するとすぐ、サレジオ会管区長になっていた溝部神父を訪ね「何か社会のため、教会のためにお役に立つ仕事があれば、ぜひお手伝いさせていただきたい」と願い出た。溝部師はありがたくその申し出を受け、立ち上げたばかりのドン・ボスコ海外青年ボランティアグループの後援会長、さらにサレジオ会日本管区の管区長顧問に任命する。そして、木村さんの企業人としての経験は、サレジオ会の教育事業の経営に大きく貢献することとなる。育英工業高等専門学校（現サレジオ高専）と大阪星光学院の理事、また東京サレジオ学園の監事やカリタスの園（イエスのカリタス修道女会）の理事、会津若松ザベリオ学園（無原罪聖母宣教女会［当時］）の理事として、退社後の約20年を捧げていった。

溝部師は述懐する。「真面目で誠実、清廉潔白な人でした。彼はよく言っていました。『会社は儲けるだけを考えていたら駄目で、大事なのは誠実さです』と。これが彼の哲学でした。」

2011年7月17日、木村さんのサレジオ会事業への献身的な働きが認められ、カトリック教会の活動と発展に尽力した者に与えられる大聖グレゴリオ騎士団勲章を受章した。しかし2013年末、心臓バイパス手術を受け、成功した後、徐々に歩行が困難になる。2015年1月25日、88歳で帰天。妻の繁子さんがふりかえる。「第二の人生は、本当に生き生きと充実した時期だったと喜んでいました。小さなタレントを捧げた夫・重雄は神さまの恵みと人々の協力を頂いて走るべき道を走り抜き、喜んで神さまの御許に参りました」。（文／サレジオ会）

ヨゼフ 木村重雄（きむらしげお）
1926年12月18日熊本市生まれ。1947年日本セメントに入社。1992年退社後、サレジオ会教育事業に理事または監事として貢献。2015年1月25日、帰天。

もっとキミに伝え隊（タイ）!!
サレジアンが心を込めて贈る
あなたへ応援メッセージ

神様のいうとおり!

どれにしようか悩むなら、
アヴェ・マリア！

今回の応援隊員
小瀬良（こせら）・るみ
イエスのカリタス修道女会

長崎県上五島出身。15歳で東京修学志願院に入る。2000年初誓願。育英高専、都城、長崎外海（そとめ）、ボリビア、大分別府、奄美において主に看護職を経て、現在、杉並本部修道院にて管区召命司牧担当。

「ど～れ～に～し～よ～ぉ～か～な…神様のいうとおり！」というこのフレーズを私は幼い頃よく使っていましたが、皆さんはどうでしょう？　モノがあふれる時代に育ったためか、触れながら、なんども見て「天の神様のいうとおり！」と最後に触れたものに決めていたのを覚えています。

さて、幾つも選択肢がある中から選ばないといけない状況で、あなたはどれだけ「神様のいうとおり！」と言いながら物事を決めてます？　神様の声、聞けてます？　聞こうとしてます？　私はシスターとして生きる道を歩む前、家のすぐ近くの小瀬良教会に向かって毎晩お祈りして眠っていたんです。きっかけは、あるシスターが〝夜、休む前にマリア様にお祈りして眠りなさい〟と勧めてくださったから。当時中学3年生だった私は進路のことで悩んでいたこともあり、毎晩休む前にアヴェ・マリアの祈りを3回唱えていました。すると

ある夜、私には聞こえてきたのです、マリア様の声が……。なんてことがあったわけではありません（笑）。アヴェ・マリアの祈りを毎晩唱えて休んでいたのは本当です（笑）。それ以来、神様の声を聞こうと努めています。それでも残念ながら神様の肉声を一度も聞いたことはありません。マリア様の声も。本当に残念です。それでも言えることは「神様の声が聞きたい！」という思いです。そして時々、あっ今ここにいた。神様が確かにいた！と感じることがあります。

幼い頃、漁師だった父と朝早く伝馬船（てんまぶね）※1で沖に向かって漁（りょう）に出ていました。地平線から昇る太陽を見ながら、起きて来てよかったという清々（すがすが）しい思いや、沖合での静寂な朝を今でも時々思い出します。月夜（つきよ）間※2しか家にいない父に誘われて、眠くて本当は嫌だったし、きつかったけれど「一緒に行ってやるか」と、生意気で上から目線な気持ちでついて行っていました。そんな気持ちでついて行ったのに、そこで得たのは、大自然や美しい朝焼けを創造された御父、神との出会いだったのです。眠さ、辛さが伴う方（ほう）にやはり喜ぶ父、神はおられるようです。

どれにしようか悩むときちょっと辛い方を選んでみては…、マリア様と一緒に神様に聞いてみてください。幼かったあの頃のように。神様のいうとおり！ときっと答えが見えてくるはずです。

青年ナイト・ウォーキングで三島神父、青年たちと一緒に

※1. 木造の小型和船　※2. 満月の前後数日間の休漁期間のこと

PRESENT ドン・ボスコの風 読者プレゼント

応募方法:
お名前(フルネーム)・住所・年齢・ご職業とご希望のプレゼント（A・B・C）いずれか一つを明記し、本誌のご感想・ご要望をお書き添えの上、Eメールまたはハガキで下記宛先までお送りください。

【Eメールの場合】
DB-no-kaze@donboscojp.org
【ハガキの場合】
〒160-0004
東京都新宿区四谷1-9-7 ドン・ボスコ社内
「ドン・ボスコの風」編集事務局

応募締切: 2015年9月30日消印有効

当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。
ご応募いただいた方の個人情報は賞品の発送のみに使用し、その他には一切使用致しません。

A 『コラッジョ!!』サイン本

今号特集でも紹介したサレジオ会日本管区原作のドン・ボスコ漫画。作画の鈴木ぐりさん、監修の浦田慎二郎神父、二人のサイン入りで希少な一品。

A5判並製 206頁

5名様

B 樹脂製 ドン・ボスコ像

日本国内では販売していない、樹脂製色付きのドン・ボスコ像。あなたのそばできっと励ましてくれますよ!

イタリア製
H135×W49mm

3名様

C ドン・ボスコ ボールペン

クリップ部分にドン・ボスコの肖像が付いた樹脂製ノック式ボールペン。４色ありますが、今回はオレンジのみ。

※色はオレンジのみ。
イタリア・樹脂製
H137×直径10mm

5名様

（いずれもドン・ボスコ社提供 www.donboscosha.com）

from the Editor 編集後記

記念とは「思い出し」、そこから「何かを得る」こと。ミサがそう。「これを私の記念として行いなさい」。ドン・ボスコの夢の実現のため、この記念の年に新たな出発ができますように。（S）

ドン・ボスコは過去の偉人ではなく、今も第二、第三のドン・ボスコが世界中のどこかで助けを必要とする青少年のそばにいるのだと、改めて感じる年となりました。（N）

ドン・ボスコの風 No.15
SALESIAN BULLETIN JAPAN July 2015
2015年7月31日発行（年2回発行）

編集人　関谷　義樹
発行人　山野内　倫昭
発行所　カトリック・サレジオ修道会
「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0004
東京都新宿区四谷1-9-7
ドン・ボスコ社内
電話：03-3351-7041
Fax：03-3351-7042
Eメール：DB-no-kaze@donboscojp.org

編集・デザイン制作　ドン・ボスコ社、相原朋子
印刷所　日之出印刷株式会社

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© カトリック・サレジオ修道会 2015

次号No.16は2016年1月発行予定です。「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ http://salesians.jpでご覧いただけます。トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」

2015年 11月23日（祝）
ドン・ボスコ 生誕200周年 1815 2015
閉幕イベント開催!
2015年11月23日（祝）、東京カテドラルにて、生誕200周年を締めくくる「閉幕イベント」を盛大に行います。

【日程】2015年11月23日（祝）10:30～16:30
【場所】カトリック東京カテドラル関口教会
【内容】 展示・売店コーナー、シンポジウム「あなたが主役!DB青年の主張」
昼食・アトラクション・懇親会、出店、ミニライブ、ゲームコーナー、
同窓会コーナー、アカデミア（ドン・ボスコの劇上演）、閉幕ミサなど

詳細は、ドン・ボスコ生誕200周年 記念特別サイト
http://salesians.jp/anniversary_events にて掲載。

・たくさんの働き手が必要です。人的・経済的ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。
・カトリック東京教区本部ならびに関口教会の皆様の寛大なご協力をいただいております。
・ご来場には、原則として公共交通機関をご利用ください。（駐車場は器材搬入車両等に限ります）

主催：サレジオ家族

イエスのカリタス修道女会の総長、アポリナリス志村百合子シスター帰天

イエスのカリタス修道女会の総長アポリナリス志村百合子シスターは、訪問先のブラジルで、御父の御もとに召された。

志村シスターは2015年5月20日にサンパウロに向けてローマの総本部を発ち、25日からはブラジルの北東部に位置するジュアゼイロ・ド・ノルテの共同体を訪問していた。翌日の夕食後、若者たちとの集いになかなか現れない総長を心配した姉妹が部屋に行ってみると、意識を失って倒れていた。病院に緊急搬送されたが、30日、御父のもとに旅立った。享年67歳。

志村シスターは1948年、山梨県甲府市に生まれ、12歳で召命を受け、1969年に初誓願、1975年に終生誓願を宣立。1974年から修学志願院、1977年に他の2名の姉妹とともにローマに派遣された。その後、日本司教団ローマ事務所の秘書の仕事の傍ら、修道会が聖座法の会になるための手続きに尽力した。1998年副総長、2004年総長選出。2010年には総長再選。今年5月、2016年に別府で開催予定の総会準備のために開催されたフォーラムの基調講演で志村シスターは、「Periferia（辺境、周辺部）へ出て行きなさい」と、力強く会員を励まし、自ら辺境の地ブラジルの小共同体の姉妹たちを力づけ、単純素朴な村人たちに囲まれて天国に旅立った。葬儀ミサは6月4日ブラジルのサンパウロにある管区本部所属の教会にて、日本では追悼ミサが6月17日に捧げられた。

サレジアン・シスターズ 新管区長に森下ワカヨシスターが就任

2015年5月31日、三位一体の主日、五月晴れの美しい日差しの中、調布のサレジアン・シスターズ管区本部にて森下ワカヨシスターの管区長就任式が行われた。参集した120余名の姉妹たちとサレジオ会から山野内倫昭管区長、濱口秀昭副管区長に見守られ、総長に代わり副管区長武石聡子シスターが「任命書」を読み上げた。管区長着任後わずか2年で総評議員に選出された前管区長井上澄子シスターの後を引き継いでの任命となる。

「教室から管区に参りました」と緒方貞子氏の言葉を借りて自己紹介を始めた森下シスターは「傾聴、識別、喜び、奉仕」という4つのキーワードから自身と管区の歩みについて述べた。

会食でのひととき。右がシスター森下新管区長

長く教育現場を歩んできた森下シスターの印象は、温かで穏やかな人。時間を惜しまず傾聴し、楽しげに自分の失敗談も交えながら率直に相手に語る対話の人でもある。これまでもVIDESジュニア等の様々な活動を開拓してきた新管区長のそのパイオニア精神のもとで、サレジアン・シスターズ日本管区の新たな歩みが始まる。

SYM、日本から18名が参加

世界中のサレジオ青年が集まるイベント「SYM Don Bosco 2015」（8月11日～16日、イタリア・トリノ）に、日本から18名の若者が参加することとなった。トリノ市内でのイベント参加後、カステルヌオヴォからコッレ・ドン・ボスコまで歩き、参加者全員での野宿、8月16日の総長司式のミサで閉会となる。日本の巡礼団はその後、アシジ・ローマを訪問、教皇謁見も予定。11月23日の閉幕イベント（東京カテドラル）で巡礼参加者による報告会を行う予定。

SYM 支援のためのご寄付のお願い
活動支援のため、ご協力をお願いいたします。
下記の振込口座まで（または本誌とじ込みの振込用紙にて）ご寄付をお願い申し上げます。
【郵便振替】口座番号　00100-7-412947
加入者名　「ドン・ボスコの風」編集事務局
※通信欄のご寄付意向にチェックを入れて、ご寄付金額を明記ください。

サレジオ同窓会日本連合 設立役員会を開催

2015年5月9日、サレジオ同窓会日本連合の設立役員会がサレジオ高専にて行われた。育英学院（サレジオ高専）、日向学院、大阪星光学院、サレジオ学院、サレジオ小・中学校の各同窓会役員（または代表）と各学校長ら30人が参加。初代会長に選任された吉田博史さん（大阪星光学院同窓会会長）は、「サレジオ会・各学校・各同窓会が、互いの多様性を認め合いながら、集い、話し合い、支え合い、力を合わせて社会に貢献していけるよう、理解と協力をお願いしたい」と挨拶。顧問を務める管区長の山野内倫昭神父は、「長い準備を経て、ドン・ボスコ生誕200周年に1つの夢が実現した。心から感謝したい。同窓生の輪をさらに広げて、日本社会・国際社会にもぜひ貢献していってほしい」とお祝いと激励の言葉を贈った。

会議では今後の活動について活発に意見が交わされたほか、サレジオ高専の皆さんによる校内見学会や懇親会も行われた。今後は、今年10月にローマとトリノで開催される世界連合大会に代表者を派遣するほか、交流・学習・若者支援などの活動、サレジオ小・中学校同窓会の設立支援にも取り組んでいく予定。

各同窓会の代表と校長、総勢 30 名が参加

ドン・ボスコの風 No.15 2015年7月
SALESIAN BULLETIN JAPAN
July 2015 年2回発行

2015年1月31日、ヴァルドッコにあるサレジアン・シスターズの学校にて生徒たちと

Message from Rector Major

サレジオ会総長メッセージ

サレジオ青少年運動の若者たちへのメッセージ（抜粋）

皆さんと共に、皆さんの中で、皆さんの傍らで一緒に旅を歩ませてください

共に旅を歩むということは、一人ひとりが自分という贈りものを
差し出しながら、私たちが互いに教え合うことを意味します。
私たち皆が、この旅を歩むことに責任をもって取り組み、互いへの関心、
共感、配慮をもって、成長を続けることを意味します。
皆さんの若いいのち、そして私たちのいのちに意味を与えるあこがれ、
希望、願いを、私たちは共にしています。
主との出会い、ほかの若者たちとの出会い、
そして皆さんを必要とする人々との出会いに向かうこの旅で、
母マリアがやさしい愛をもって皆さんと共にいて、
助けてくださることを私は疑いません。
大きな愛情をこめて。

2015年1月31日　ドン・ボスコの祝日に
総長　アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

発行：カトリック・サレジオ修道会　「ドン・ボスコの風」編集事務局　〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9-7
TEL: 03-3351-7041 FAX: 03-3351-7042 Eメール: DB-no-kaze@donboscojp.org